

財団だより

多摩川

1997.12 第76号



ヤマカガシ (ヘビ科)

緑色の地に褐色や赤の不規則模様がある。水田や水辺に普遍に見られる。カエルや小魚を食う。

全長60cm～1.2m



住民参加により造成された稲城市・押立堀公園 左、完成前(96.11) / 右、完成後(97.11)

■多摩川現風景■

(32) 住民参加の公園づくり

稲城市の押立堀公園をたずねてみた。今年の春できたばかりの東西約120メートル、幅約10メートルほどのちいさな公園である。多摩川からの用水「押立堀」を利用した公園である。丘、池、花壇、芝生、井戸などがあり、のんびりできる。

最近、住民が参加した公園づくりが各地で進んでいる。静岡県三島市のように、住民自身が計画し、公有地をつかって、自力でつくったもの。練馬の大泉井頭公園や、江戸川区の上篠崎四丁目公園などのように、建設にあたって、行政が設計に住民の意見をとり入れたもの。押立堀公園の場合は、住民と行政が協力して、事業全体を地域住民に民間委託したものである。住民参加にも、いろいろな段階の違いがあることがわかる。

これらの動きの背景には、いままでの公園づくりが、地域住民にとって、どうも「自分たちの公園」としてしっかりとした感じをもてなかったところにあるのではあるまいか。「行政が勝手に造

ったのだから、行政が管理すればよい。」というのでは、いつまでも、住民に愛される公園はできない。住民が参加することにより、建設費も安くなり、なによりも「自分たちの公園」ということで愛着も増す。それに完成後のきめの細かい公園の維持管理には、住民の自主的な協力も必要であろう。

●関連する財団の研究助成

〈学術研究〉

①多摩川活性化の方途(水と親しめる町づくり)

1991年 柴田徳衛 東京経済大学 (No.138)

②多摩川およびその流域の都市化と環境保全

中井達郎 (財)日本自然保護協会 (原稿作成中)

〈一般研究〉

①多摩川河川敷を訪れる人々の住環境と多摩川流域の利用のあり方との関係について

1981年 喜多野薫 立花環境設計事務所 (No.18)

②住民による住民意識の聞きとり調査とテキスト・イラスト・マップ化の試み(野川をフィールドとして)

1985年 吉田喜八郎 井戸端議会小金井 (No.40)

多摩川散歩

■河川環境問題啓発のパソコン

CD-ROM 2種完成■

建設省京浜工事事務所

●「多摩川探偵団」について

「多摩川探偵団」は、主に小学生を対象に、多摩川の環境について学んでもらうことを目的として、以下に示す内容で作成しました。

◎多摩川探偵団とは多摩川の環境を[※]バーチャルリアリティなRPG仕立てのゲームにし、コンピューターの中に「多摩川」を再現し、RPG的に「多摩川」擬似体験し多目的に理解してもらう。

◎多摩川の上流から下流までの風景・施設そして鳥や魚などの環境情報を織込み、多摩川と周りの状況、多摩川に住む鳥や魚などの情報を理解しやすいように表現しました。

◎川を歩くことで得られる様々な知識、体験をコンピューターの中で多摩川を題材として表現しました。

以上、「多摩川探偵団」を通じて、より多くの人々が、身近にある川のことも理解していただければ幸いです。

また、「多摩川探偵団」を広く利用していただきたく、全国の書店で販売中です。

(価格は4,800円/税別)

※バーチャルリアリティ：「仮想現実」。

コンピューターの中に「現実」を表現

し、疑似的に「現実を」体験できる。

※RPG：ロール・プレイング・ゲームの略称。

それぞれの場面毎に問題や試練を解決することで進行していくゲームの総称。

●「River-ty Town」について

このソフト名は河川と都市が密接な関係にあることを表現するために作った造語です。

「自由」に河川と都市の関係を作れることから似た発音であるLiberty(自由)にもかけています。

このソフトはプレイヤーが自由に設定・行動し、その変化と結果を楽しむシミュレーション・ゲームで、以下に示す内容が織り込まれています。

◎河川環境と都市と流域環境の関係をゲーム化しました。

◎洪水、渇水、都市活動や施設の建設に伴う環境の変化が体験でき、その対策を行うことで、環境が変化し、生態系も変化します。

以上、「River-ty Town」を通じて河川環境を理解していただければ幸いです。

(全国の書店で販売中、定価3,800円/税別)

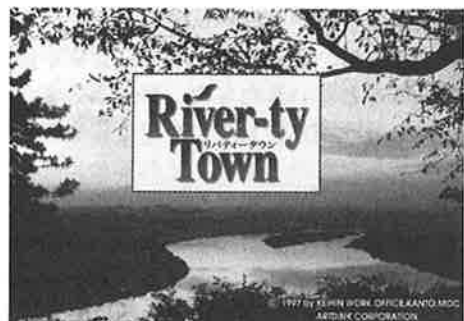
◆問い合わせ先：

建設省京浜工事事務所 河川環境課

水質調査係長 秋元 ☎045-503-4011



▲「多摩川探偵団」



▲「River-ty town」

私と多摩川



奥多摩・御岳でのカヌー

たまがわネット 加藤真紀子

いつから私の中に、川が流れるようになったのだろう。今では望むなら、何時でも何処にいても、あの清冽な水飛沫や緊張をはらんだ水滴、川面のきらめき、落ち込みの青さ、冷気とにおいて自分をいっぱいにすることができる。

カヌーにのめり込むまで、むしろ海が好きで、川といえば小さい頃家族で行った多摩川のナシ狩りか飯盒すいさん位。川を恐れて、足もつけなかったような気がする。

イラストを描いていた雑誌の編集者の勧めで始めたカヌーだが、所属したクラブが奥多摩・御岳にあったことから、急流では技術練習は不可欠、また技量が無くてはちっとも川に遊んでもらえないという訳で、レースにも参加するようになった。川に出れば頼れるのは自分だけ、下手の横好きと今もいわれる私にとっては、それこそ汗と涙と鼻水の極限の世界だった。見たくもなかった自分の弱さを見せつけられたし、思いがけない自分の強さに驚いたりもした。水の上ではあるがままの姿を見せ合ってしまうから、お互いの長所・短所を愉快がりつつ無邪気に遊べる得難い仲間を得ることもできた。

これ以上でも以下でもない自分を知り、違うことが楽しい人達に出会って沢山の時間を共有し、

私の絵も、多分私ものびのびしてきたような気がする。

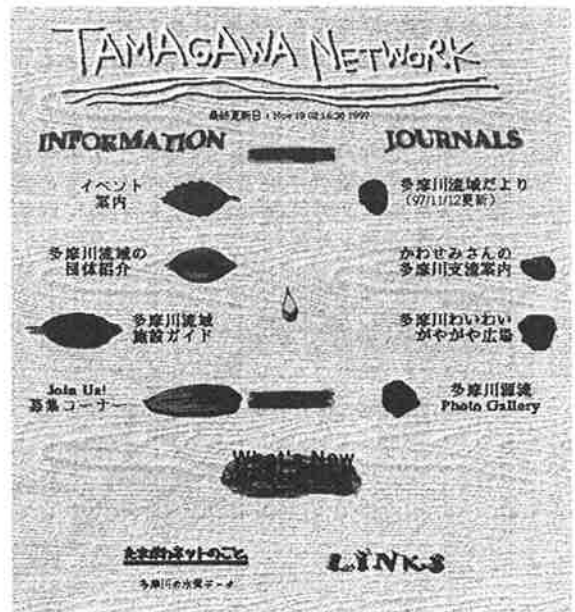
やはり川が縁で勤め始めたたまがわネット事務局は、インターネットで多摩川流域に活動している団体の交流を図ろうと作られた任意団体で7月に新しいホームページを立ち上げました。多摩川流域の様々な情報を交換しようと、源流から河口までの流域日記や様々なイベントや団体の紹介をしている。これを作るにあたって本当に沢山のの方々にお会いし、ご協力いただいた。活動の目的もスタイルも様々だが、自分達の手で守ろうとする確かなものをもっている人々、ささやかな営みにこそ幸せがあると教えてくれる流域の日常との出会いであった。

こうした経験を通して、私はいつの頃からか、すべての命はつながり合って輪になっていると感じはじめた。生も死も、違いも全てをくるみ込み、人も自然もみんなで一本の命の木であると。これは、私の中を流れる川が私にくれた、感動であり、生きる力、最後に残る希望である。

たまがわネットホームページ

“Tamagawa Network”

URLアドレス: <http://www.tamagawa-net.org/>



よみがえ

甦れ！多摩川

■ 浅川を歩くーその1 ■

(多摩川合流点～南浅川合流点)

浅川は延長43.15キロ、今回は多摩川との合流点から、南浅川との合流点までの13キロを上流にむかって歩くこととした。この区間は建設省の直轄区間である。京王線の百草園駅を北に400米ほど進むと、程久保川にかかる浅川橋につく。さらに150米ほどゆくと、浅川と多摩川の合流点に達する。この辺りの河原では、すすきの穂が朝靄のなかで白く輝いて、たいへんうつくしい。対岸が日野市のクリーンセンターであるあたりが浅川の0キロメートル地点である。上流へ700米ほどのぼると新井橋につく。橋に平行してモノレールの橋脚がたちあがっている。この辺りでは、河原は灌木や雑草が茂った中州になっている。セグロセキレイが2～3羽飛び交っている。ネザサの茂る土手があり、伝統的な蛇かごによる工法との掲示がなされている。まもなく、ふれあい橋(万願寺歩道橋)につく。橋の中ほどに、丸い花壇があり、野菊が植えてある。鳥や魚を描いた色タイルも埋めこんであり、なかなか楽しい吊り橋である。カワウが8羽ばかり中州で憩っている。コイもいるし、コガモもいる、賑やかな川辺である。

高幡橋の際には、建設省の高幡橋観測所がある。河川の水位などを自動記録する施設である。多摩川から2キロほどの地点である。

京王線が浅川にそって3キロばかり走っている。このあたりの河原はすすきの群生地であり、秋の陽射しを浴びてすすきの穂が白くゆれている。右岸に沿って、向河原緑道の桜並木が続いている。さくらの季節には見物客で賑わうのだろう。

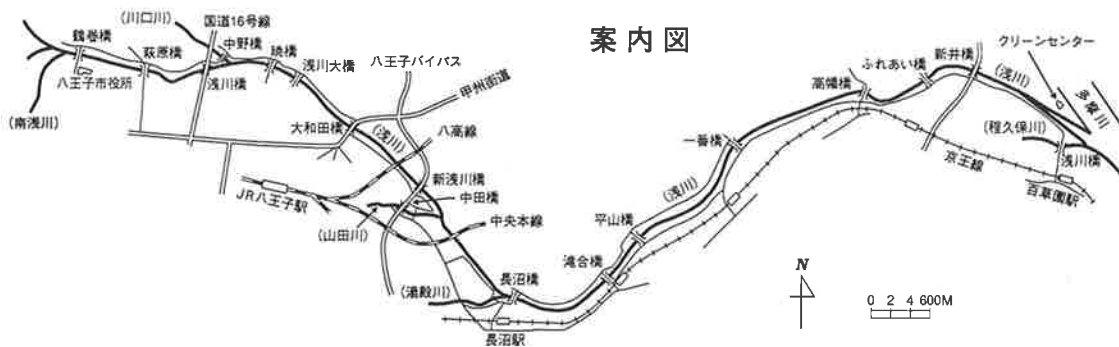
このあたりでは、流れは蛇行している、水もきれいだ。一番橋で左岸に移る。一望のもとに見わたせる丘陵の斜面に、いくつかの団地がひろがっている。団地のむこうに、多摩テックの観覧車が見える。平山橋の手前で重機をつかっている護岸工事が300米ほどの区間で盛大に行われている。川は右岸の隅を細々と流れている。

川の中州にコサギが数えきれないくらい群をなしており、壮観である。滝合橋あたりは水量が豊かである。しばらく行くと、川幅がひろく、流れは1/4ばかりになる。長沼橋あたりで、リュックを背負ったご婦人が3人ほど下流に向けて歩いて行く。たぶん川歩きだなおもう。最近、川歩きの小グループによく会うようになった。この辺で、左側に湯殿川が分かれている。3、4才の男の子と女の子が、堤のくぼみの吹きだまりの枯芝を頭から浴びてキャッキョといいながら遊んでいる。お母さんがそばでにこにこ見ている。

中央本線の鉄橋をくぐり、山田川が合流しているのを、すこし歩いて、中田橋をわたり新浅川橋のところまで浅川に戻る。多摩川から8キロの標識がある。新浅川橋で八王子バイパス(国道16号線)は浅川をわたる。このあたりは、川幅が広く、中州に灌木が茂り、鬱蒼とした風景になっている。しばらく行くと、八高線の鉄橋の手前の踏切を渡る。流れは細くなっている。大和田橋につく。この橋には、終戦直前の、昭和20年8月2日にB29、180機による空襲があり、その時の焼夷弾の弾痕が17ヶ所記されている。その時、八王子旧市街地の8割が全焼し、多数の死者が出たが、この橋の下に避難した多くの市民の命が救われた。浅川大橋の手前の河原にユリカモメが群をなして飛んでいる。この辺りまで飛んでくるのかと不思議に思った。暁橋をすぎ、中野橋に到着する。ここは川口川との合流点である。魚が集まるようで、釣人が3人ばかり糸をたれている。浅川橋で東京環状(国道16号線)が浅川をわたっている。

萩原橋の手前の河原には釣り堀があり、釣人が6人ほど糸を垂れている。傍らの茂みの灌木の枝にカワセミが止まって、ときどき水に飛び込み、魚を狙っている。これだけ人の多い場所で、カワセミをみるのは珍しい。萩原橋から下流をみると、コサギが20羽ほど中州に群れている。多摩川から12キロの地点に、中野2号河川敷広場がある。八王子市役所を左にみて、鶴巻橋に到着する。間もなく、南浅川との合流点に達する。ここでも釣人が多数、糸を垂れている。

かわ せみ
翡翠



案内図

《 “多摩川およびその流域の環境浄化に” 関する調査・試験研究” 募集 》

当財団は昭和50年から表記研究の公募を毎年行ってきました。既に343件の研究に対して助成金を交付し、276件の研究成果を得ることが出来ました。

平成10年度も引き続き首都圏における「多摩川およびその流域の環境浄化に関する基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究」を下記のとおり募集いたします。

記

1. 研究対象者

学識経験者の方はもちろん、一般の方でも研究に意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

2. 研究対象テーマ

- (1) 産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
- (2) 排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究
- (3) 多摩川およびその流域における水の利用に関する調査・試験研究
- (4) 多摩川をめぐる自然環境の保全、回復に関する調査・試験研究

◆公募締切日 平成10年1月16日

応募についての詳細は下記事務局までご連絡下さい。
〒150 東京都渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)

☎ (03) 3400-9142 (財)とうきゅう環境浄化財団

年度別助成件数・助成金額

年 度	研究 区分	助 成 件 数			助成金額 (千円)
		新規	継続	計	
昭和50年度 ┆ 平成2年度	A類	162	189	351	562,412
	B類	87	82	169	93,695
	計	249	271	520	656,107
平成3年度	A類	8	15	23	32,162
	B類	6	6	12	7,861
	計	14	21	35	40,023
平成4年度	A類	7	14	21	37,394
	B類	5	9	14	10,544
	計	12	23	35	47,938
平成5年度	A類	10	11	21	35,632
	B類	9	7	16	12,118
	計	19	18	37	47,750
平成6年度	A類	5	13	18	31,318
	B類	8	12	20	16,851
	計	13	25	38	48,169
平成7年度	A類	7	10	17	24,705
	B類	4	10	14	13,581
	計	11	20	31	38,286
平成8年度	A類	8	10	18	22,782
	B類	3	7	10	7,668
	計	11	17	28	30,450
平成9年度	A類	8	12	20	23,845
	B類	6	5	11	8,603
	計	14	17	31	32,448
合 計	A類	215	274	489	770,250
	B類	128	138	266	170,921
	計	343	412	755	941,171

※A類は学術研究、B類は一般研究

▶▶▶ 寄贈文献の紹介 ◀◀◀

● 「ライブラリー・アクア 総目録1997」
編集・発行 ライブラリー・アクア 1997年

本書は東陶機器(株)が1987年10月にTOTO乃木坂ビル内に開設した水の専門図書館に所蔵している水に関する書籍10,314冊、定期刊行物165タイトル、ビデオ392本、CD35枚を収録した総目録である。当図書館は一般に公開している。

● 「多摩民具事典」

編著者 小川直之・後藤廣史・佐藤 広・増田昭子・
関東民具研究会 1997年 (財)たましん地域文化財団

本書は多摩地域の日用道具・伝承技術の中から191点を選び、その成り立ちや特色、用途をわかりやすく解説している。農漁具が大部分を占めるが、行事、儀礼に関するもの、また娯楽、玩具なども取り上げている。

第11回「多摩川実査」を終えて

11月5日、財団主催による「多摩川現地実査」が行われた。テーマは「多摩川中流域の湧水を見る」である。今年のワークショップでは「都市と水循環」というテーマで、予想をはるかに上回る参加希望があり、いまさらながら、「水循環」についての関心が、非常に高いことを痛感した。

そこで、多摩川中流域の「拝島段丘」、「青柳段丘」、「日野段丘」などに点在する、いくつかの代表的な湧水を実際に、現地に見ようということとなった。東京都環境保全局の調査では（平成7年度）、平成2年の調査時と比べて、区部では（再調査の世田谷区を除く）、192件から178件へと14件の減少、多摩地区においては396件から373件へと23件の減少となっている。助成研究者、財団選考委員、行政関係者など計22名が、立川駅に集合、マイクロバスで現地へ向かった。踏査地点は次のとおりであった。

拝島大師・湧水（昭島市）

境内の池に注ぐ湧き水があり、住職夫人の説明によると、「最近湧水が減少してきており、都市開発や、工場の汲み上げなどが影響しているようだ」とのことであった。

諏訪神社・湧水（昭島市）

2ヶ所ほど湧水があり、いきおいのあるほどの水量ではないが、それでも境内の池に水をはるほどは出ている。

矢川緑地（立川市・国立市）

東京都の緑地保全地域に指定されており、都の10コースある「雑木林のみち」のひとつである。矢川の清流にはナガエミクリが流れにそよいでおり、雑木林と素晴らしい風景をつくりだしている。

東京に、よくぞこんなところが残されていたかと驚くばかり。環境保全への地域のかたがたの熱意と、行政の対応が実を結んだ好例である。

ママ下湧水（国立市）

青柳段丘の下の砂礫層から湧出した水が用水路を流れている。この地方では、「ママ」とはがけのことを意味する。水はかなりの勢いで湧きでていた。矢川緑地、ママ下湧水とも、今回参加の研究者、矢川水質調査会の、高橋さん、上原さんのご案内によるものである。

雨水浸透ます見学（日野市・四谷地区センター）

地下水涵養のため、自治体による補助がおこなわれているが、現物を見て、日野市の水路清流課のかたから説明いただいた。

黒川清流公園・湧水（日野市）

日野段丘の崖にそったローム層と砂層の間から水が流れ出て、池になり、水路を流れている。勢いはないが、よく流れている。

斜面の雑木林も土地のボランティアによりよく手入れされている。

井戸2ヶ所（日野市）

参加の研究者の山本さんが、地元の井戸の持主の協力を得て、16ヶ所の井戸の水位を観測しており、そのうちの2ヶ所を見せていただいた。

地主の方が、昭和30年代には自噴していたとのことで、失われた地下水を残念に思った。

今回の実査は主に多摩川中流域のごく一部ではあったが、車中での研究者の角度の異なる研究発表、行政のかたの水循環に関しての問題点の再確認、などそれぞれの立場での考えを新たにできる機会でもあったと思われる。

- 発行日 平成9年12月1日
- 編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団
〒150 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)
TEL (03) 3400-9142
FAX (03) 3400-9141

*印刷所 雄文社 〒336 浦和市常盤9-11-1 TEL (048) 831-8125

